

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

<本年度の学力向上基本方針>

- 新学習指導要領を見据えた授業の充実を図る。
- 生徒一人ひとりが「わかる授業」を実現する。
- グループごとの調べ学習や話し合い活動、発表学習の推進を図る。
- 個に応じた指導や支援をより一層進める。
- 家庭学習の充実を図る。

4月

学力向上目標①

さいたま市学習状況調査において、平均正答率を前年度の値より2 p t以上向上させた値にする。
さらに、正答数の最大値と最小値のばらつきを20 p t以下にする。

<目標達成に向けた学力向上策>

開始期日

6月中

策1

【国語】

- ・生徒の実態に応じて、漢字小テストを実施する。
- ・生徒の思考を深めるために小グループでの活動を取り入れるなど、学習形態を工夫した授業を実践する。

【数学】

- ・授業の開始時に小テストや単元ごとの確認テストを実施する。
- ・生徒の主体的・対話的・協働的な活動を取り入れた授業を実践する。

【社会】

- ・授業の開始時に前時に学習した内容や重要語句の復習を行う。
- ・学習課題に対して、興味や関心を高められるような授業を実践する。

【理科】

- ・小テストや単元ごとの確認テストを実施する。
- ・生徒の実験を中心とした主体的・対話的・協働的な活動を取り入れた授業を実践する。
- ・明確なイメージをもたせるために映像コンテンツを活用し、知的好奇心を高める活動を取り入れる。

【「グローバル・スタディ」】

- ・小テストやパフォーマンステストを実施する。
- ・文字だけでなく絵や動画を活用して、生徒の理解度を深める。

【その他】

- ・適切な時期に補習を実施する。
- ・「学習の道しるべ(シラバス)」を積極的に活用する。
- ・家庭学習の定着を図るために、家庭との連携をより一層密にする。

具体的な手立て

【国語】

- ・年間を通して漢字の級別または単元別での小テストを実施し、基礎的な言語に関する習得を目指す。
- ・自分の考えを広げたり、深めたりするために、小グループによる対話的な学習を積極的に取り入れ、学習課題に対して主体的に取り組む授業形態の工夫をする。
- ・論理的な思考力を高めるため、筋道を立てて考えることに抵抗のないように発問や学習課題を工夫する。

【数学】

- ・基本的な事項の理解を着実なものにしていくため、小テストや単元ごとのテストを実施することで基礎学力の確実な定着を図る。
- ・数学的な見方、考え方や応用力を育成するため、与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れた指導を継続的に実施する。
- ・自分で考えたり、友人同士で話し合ったりするなど、生徒が主体的に取り組む授業を計画的に実施する。

【社会】

- ・学習のねらいを明確化し、1時間の学習内容を振り返ることのできる板書を工夫したり、地図や年表を積極的に活用したりする。
- ・地図、年表、統計資料等の読み取りの場面を積極的に取り入れ、生徒の生活に即した具体例を用いてわかりやすく説明する。
- ・ニュース映像、新聞記事、ICT機器や資料の効果的な活用を行い、学習内容についての興味・関心を高める。
- ・課題解決型の授業、言語活動を積極的に取り入れた授業を展開し、生徒の主体的な学習を促す。

【理科】

- ・自ら学ぶ姿勢を身に付けるため、魅力ある導入の工夫を行い、授業の中に積極的に生徒の活動を位置づけ、確実な学習習慣の確立へとつなげる。
- ・理科室が1つのため、観察・実験を行うことが難しい環境ではあるが、可能な限り理科室を利用して体験の場を増やしていく。

【「グローバル・スタディ」】

- ・自分の思いや気持ちを言葉にしたり、文章を正確に読み取ったりする能力の向上を図る。
- ・4技能を統合した活動を多く取り入れ、実践的なコミュニケーション力の向上を図る。
- ・会話やスピーチなどのスピーキング活動の場面を多く設定し、表現する力とコミュニケーション力の向上に努める。
- ・実際のコミュニケーションでは、その場の状況や相手の表情やジェスチャー、文脈など様々な情報から正確に情報を理解する力を身に付ける学習を進めていく。

【その他】

- ・定期テスト直前だけでなく、定期テスト前以外の時期にも補習を継続的に実施する。
- ・「学習の道しるべ（シラバス）」を6月上旬に生徒に配布し、活用の仕方、評価・評定等についての周知を図る。
- ・定期テストに向けた学習計画をテスト2週間前から具体的に作成させ、定期テストを中心とした学習への取組に活かす。
- ・「オンリーワンノート」を活用した家庭学習の定着を図るための取組を、6月上旬に生徒・保護者にプリントやホームページ等を通して周知し、家庭との連携をより一層高める。

【国語】

- ・年間を通して、漢字小テストを実施し、基礎的な言語への意識付けを行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、小グループによる対話的な学習については実現ができないことが多かった。来年度に、引き続いていきたい。
- ・論理的な思考力を高めるため、筋道を立てて考えることに抵抗のないように発問や学習課題（ワークシートなど）を工夫できた。

【数学】

- ・年間を通して計算の小テストを行うことができた。
- ・与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れた。
- ・個人で考える時間、考えを共有する時間を確保することで生徒が主体的に取り組むことができた。

【社会】

- ・毎時のプリントを通して、目標とまとめをリンクさせることができた。
- ・ICT機器を積極的に用いることができた。
- ・言語活動は例年に比べ制限もあり、少なかった。
- ・基本的知識を定着させるための工夫や時間が足らなかった。
- ・生徒の興味・関心を高め、学習意欲向上につながるような資料、教材を探す努力が必要と感じた。

【理科】

- ・小テストや問題演習を定期的に行うことができた。
- ・ICT機器を積極的に用いて、目標の明確化や導入部分の工夫を行うことができた。
- ・活動の制限がある中でも可能な限り実験を行い、生徒の活動の場を設けることができた。

【「グローバル・スタディ」】

- ・各プログラムの最後にパフォーマンステストを実施することができた。
- ・道案内など、実際の場面を想定してコミュニケーション活動を取り入れることができたが、活動の制限もあり、例年より回数は少なかった。
- ・ICT機器を用いて文字だけでなく、絵や動画を活用することで生徒の理解を深めることができた。

【その他】

- ・個別指導の一環として、テスト前など適切な時期に補習を実施した。
- ・定期テストに向けた取組として、「学習の道しるべ」を活用した事前指導（学習計画の立て方、計画的な学習の見届け等）及び事後指導（計画的な学習の実施に対する振り返り等）を実施した。
- ・基礎学力向上や家庭学習の定着のための取組として、「オンリーワンノート（家庭学習用ノート）」を活用した学習指導を実施した。今後もこれらの実施を通して、学習指導の充実を図りたい。

【国語】

- ・論理的に説明したり、分かりやすく書いたりする力を高める。
- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項をより習得する学習を充実させる。
- ・ICT機器を用いた授業実践を工夫する。

【数学】

- ・ICT機器を用いた授業実践を工夫する。
- ・基礎的な知識・技能の定着を目指した学習を工夫する。
- ・数学的な見方、考え方や応用力の育成を目指した学習を工夫する。

【社会】

- ・ICT機器を用いた言語活動の充実を図る。
- ・1人1台パソコンの環境が整ったら、ドリルに取り組みさせる時間を設ける。
- ・提出物を提出できない生徒に個別に対応する。

【理科】

- ・ICT機器を用いた授業実践を工夫する。
- ・見通しをもった観察・実験を可能な限り行い、思考力、判断力、表現力の定着を目指した学習の充実を図る。
- ・基礎的な知識及び技能の定着を目指した学習を工夫する。

【「グローバル・スタディ」】

- ・タブレットなどICT機器を用いた授業実践を工夫する。
- ・場面に応じたコミュニケーション活動を多く設定する。
- ・自分の考えや気持ちを表現する力を高める。

【その他】

- ・ICT機器を活用した授業を積極的に実施する。
- ・適切な時期に補習を実施する。
- ・「学習の道しるべ（シラバス）」を積極的に活用する。
- ・家庭学習の定着を図るために、家庭との連携をより一層密にする。